

## 新 危険品の混載を開始

日 世界80地域へ輸送可能に

日新(本社・東京、筒井雅洋社長)は九月中旬から、危険品の混載サービスを始める。

荷物の搬入先には、子会社の鶴見倉庫(本社・横浜市鶴見区)を使用。多種類の危険品を鶴見倉庫で混載に仕立て、シंगाポール経由で世界八十地域に輸送する。

危険品の輸出では、外国貨物としてのみ受け入れる倉庫がほとんど。鶴見倉庫には内国貨物のまま搬入できるため、内国貨物用倉庫から外国貨物用倉庫に移動する時間や費用を節約できる。

取り扱う貨物は、IM

DGコード(国際海上危険物規程)で定められたClass 3(引火性液体)とClass 8(腐食性物質)が中心となる。

同社は昨年十一月、危険品物流の強化を目的に鶴見倉庫を完全子会社化。危険品取り扱いの高度なスキルを手に入れたことで、新たなサービスを顧客に提供できるようになった。

鶴見倉庫の危険品物流は平成二十二年四～六月期決算にも収益面で貢献。同社では今後、輸送地域拡大と取り扱い可能貨物の増加に努めるとしている。(藤本 裕子)